

平成30年度授業改善推進チーム活用事業

# 授業改善推進チーム 実践事例集



その先の、道へ。北海道  
Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道教育庁学校教育局義務教育課

## H30 授業改善推進チーム実践事例集

- 授業改善推進チーム活用事業は、教科指導における豊富な経験や実践的指導力を有する授業改善推進教員3名程度が、「チーム」となり、1週間を単位として同一の学校に勤務して、集中的にチーム・ティーチングを行い、学校全体の授業改善に取り組むことを目的として実施している事業です。
- 本事例は、授業改善推進チームの推進教員がこれまでの実践を通して、授業改善のポイントをまとめたものです。

No.	項目	掲載内容	推進チーム(教育局:市町村)
1	学校全体	「記録シート」の作成及び活用	上川:士別市チーム
2	学校全体	チャレンジテストの効果的な活用	渡島:七飯町チーム
3	学校全体	校内研修の工夫	石狩:北広島市チーム
4	学習環境	既習事項の振り返りができる掲示物	宗谷:枝幸町チーム
5	学習規律	学習規律の定着	石狩:江別市チーム
6	学習規律	子どもの話し方を向上させる手立て	後志:小樽市チーム <small>(釧路・根室)</small>
7	学習規律	ノートの使い方や書く内容の指導について	オホーツク:北見市チーム
8	指導計画	言語活動の充実	オホーツク:網走市チーム
9	授業全体	1時間完結型授業の充実に向けて	オホーツク:紋別市チーム
10	授業全体	導入・展開・終末の時間配分の工夫	日高:浦河町、様似町チーム
11	授業導入	学習課題の設定と提示	十勝:音更町チーム
12	授業導入	学習課題の設定と提示	釧路:釧路市チーム
13	授業展開	学習課題の解決に向けて活動する学習展開	留萌:苫前町チーム
14	授業展開	I C Tを活用した学習指導	石狩:当別町チーム
15	授業展開	I C Tを活用した学習指導	オホーツク:美幌町チーム
16	授業展開	学習形態の工夫	胆振:伊達市チーム
17	授業展開	思考を深めるための発問	胆振:苫小牧市チーム
18	授業展開	学習展開が分かりやすい板書の構成	後志:小樽市チーム <small>(釧路・根室)</small>
19	授業展開	板書の構成	オホーツク:大空町、網走市チーム
20	授業終末	調べたことや考えたことを書かせる指導	上川:旭川市チーム
21	授業終末	調べたことや考えたことを書かせる指導	宗谷:稚内市チーム
22	授業終末	まとめや振り返りを位置付けた学習活動の工夫	空知:滝川市チーム
23	授業終末	効果的なまとめや振り返り	十勝:幕別町チーム

取組のポイント

- 情報共有シートの観点を踏まえた記録シートの作成
- 記録シートに基づく、授業者が授業を振り返る機会の設定
- 記録シートを活用した効率的な放課後の打合せの実施

取組の概要

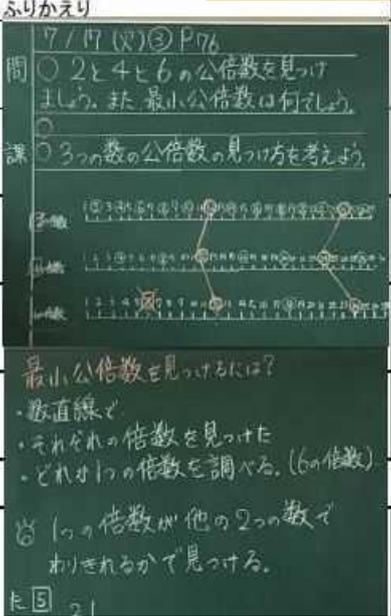
■授業改善に向けての観点及びふりかえり

観点	ふりかえり
1 学習環境・規律 ①～④	・スムーズ学習問題を書き、プリントも糊付けしていききました。
2 指導計画 授業全体⑤～⑪	・学習課題を立てるときにも前時との違いを明らかにして、子どもに聞きながら立てました。
3 「導入」の工夫 ⑫⑬	・課題に対して、取り組ませたことは数直線での解決です。
4 「展開」の工夫 ⑭⑮	・その後、最小公倍数を見つけ方を考えさせました。
5 「終末」の工夫 ⑯～⑳	・たしかめ問題⑮で3つの数の最小公倍数と公倍数を3つ求めました。

■そのほか、気づいたこと

- ・今日の流れでいけば、今日の学習課題は「3つの最小公倍数を簡単に見つける方法を考えよう」でしょうか。
- ・問題提示をして、すぐに数直線で問題を解決する。その後、課題提示はどうでしょう。
- ・その前に数直線の良さや大変さをみんなで作って確認して

記録シート



**記録シートの作成**

情報共有シートの観点に基づいて授業を参観し、記録シートに成果や課題を記入する。

**振り返り**

板書を確認しながら客観的に授業の振り返りができるよう、記録シートに板書の写真を添付する。

**打合せの実施**

短時間で効果的な打合せができるよう、記録シートを基に観点を絞った振り返りを実施する。

■次回の授業に向けて

- ・逆割り算も見つけ方もどこかで教えていいと思います。
- ・約数も、公約数の見つけ方の方法は、数直線、一方の約数がもう一方の約数になるかを調べる、逆割り算などがあります。またP78の「約数のしくみ」は有効な見つけ方になります。

取組の成果

- 記録シートの集積により、授業改善の進捗状況を把握することができた。
- 授業参観時に、記録シートを活用したことで、授業改善に向けた具体的な方策を明確にすることができた。
- 記録シートを活用した打合せにより、推進教員と授業者が共通理解を図りながら効率的に打合せを行うことができた。

## 取組のポイント

- チャレンジテストの結果を詳細に分析
- 分析結果を基に授業改善の視点の明確化
- 類似問題による授業改善の検証

## 取組の概要

### チャレンジテストの結果分析

チャレンジテストの結果をグラフで表し、学級の正答率の分布を整理した。

### 分析結果を基にした授業改善

正答率の分布をいくつかのタイプに分類し、学力の定着に関わる実態を把握した。

#### 【ふた山型】①

分布がふた山に分かれ学級内に異なる傾向の集団が存在

#### 【離れ小島型】②

大まかな集団から一部のデータが離れたところに存在

#### 【分析結果を基とした授業改善の視点例】

- ふた山型の場合、学習内容が定着している層と定着が図られていない層の児童がいることから個別の支援を行う機会を設定する。
- 分布が左によった集団である時は、学級全体で基礎的・基本的な内容を取り扱う場面を多く設定する。

### 類似問題による授業改善の検証

明確となった視点に基づき、授業改善を進めるとともに、推進教員が、チャレンジテストの類似問題を作成・実施し、授業改善の状況を検証した。



【学級の正答数の分布】

2年 チャレンジI れんしゅう1 なまえ \_\_\_\_\_

1 つぎのもんだいに、答えましょう。

(1) 37円の ドーナツと、25円の ラムネを 買います。  
あわせて 何円に なりますか。

しき  こたえ

(2) あきさんは、おりがみを、54まい もっていました。  
ともだちと あそんで、27まい つかいました。  
おりがみは 何まい のこっていますか。

しき  こたえ

【チャレンジテストの類似問題】

## 取組の成果

- 度数分布のグラフを用いた分析により、児童の実態に即した授業改善の視点が明確になった。
- チャレンジテストの類似問題の活用により、授業改善（児童の学習内容の定着状況）の検証が可能となった。
- チャレンジテストを効果的に活用した取組が、推進チームを中心に組織的に行われるようになった。

取組のポイント

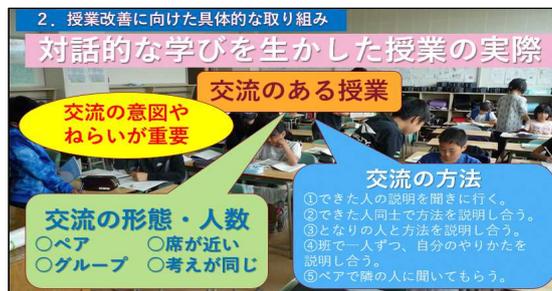
- 推進教員による授業改善に関わる「ミニ研修」の実施
- 3校の授業改善の状況を各学校の「研究便り」に掲載
- 公開研究会における連携

取組の概要

■校内の課題を共有し、共通した取組を推進するための研修の工夫

推進教員による「ミニ研修」

研究部と連携し、推進教員を講師としたミニ研修を実施し、授業改善についての共通理解を図った。



【研修で使用したスライド】



3校の先生方の意識から

先週金曜日、授業改善推進チームの先生が行われ、その資料を御提供いただきました。ありがとうございます。資料には、大塚、西の組、北の台3校の先生方の「2月の意識調査」が載っており、比較すると興味深いものがありました。

項目	観 点	大塚	西の台	北の台
学習環境	学習者が授業後、予定外の時間などに利用した図書室に寄りかかっている。	307	37	35
	ICT機器の活用など授業は教材や教具を工夫している。	343	3	343
学習態度	学習の意欲、集中、姿勢、発表の仕方などに留意し、思いやりの心など、学校の方針に基づき学習指導を徹底している。	327	35	366
	プリントの使い分けや書く内容など、学校の方針に基づく指導を徹底している。	327	35	354
授業改善	導入	313	36	35
	展開	3	32	357
	閉鎖	28	31	357
	まとめ	273	3	336
	評価	287	32	357
研修	自治で進めたことや考えたことをおかげで早く文章に書けるようになった。	273	3	293
	研修結果に基づき、評価の方法で満足、喜ばれている状態。	24	28	293

【アンケートを掲載した「研究便り」】

各校の状況を「研究便り」に掲載

推進チームが実施したアンケートの結果を研究部発行の研究便りに掲載した。3校の状況を比較し、先生方が授業改善の課題を客観的に捉えることができるようにした。

公開研究会における連携

市内の全教員が参加する公開研究会において、推進教員が協議の司会者を務めた。研究の成果や課題が明確になるよう協議を進行し、授業改善に向けた取組の意義について確認した。

取組の成果

- 「ミニ研修」の実施等により、校内研修と推進チームの授業改善の方向性が同じになり、学校全体で課題を共有し、取組を推進することができた。
- 授業改善に係るアンケート調査を定期的実施し、取組の評価、改善を図ることにより、着実に授業改善を進めることができた。
- 公開研究会において推進教員と連携し、研究の成果や課題を明確にしたことにより、授業改善の取組の意義や方向性について学校全体で再確認することができた。

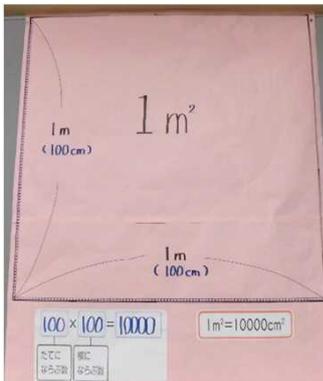
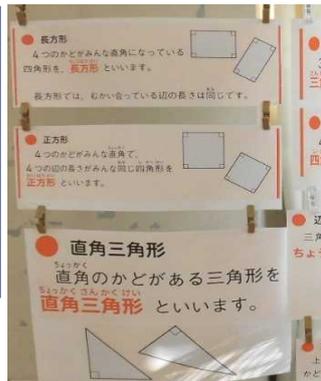
## 取組のポイント

- 課題解決につながる既習事項の掲示
- 掲示物による振り返りと今後の学習の見通しをもたせる工夫

## 取組の概要

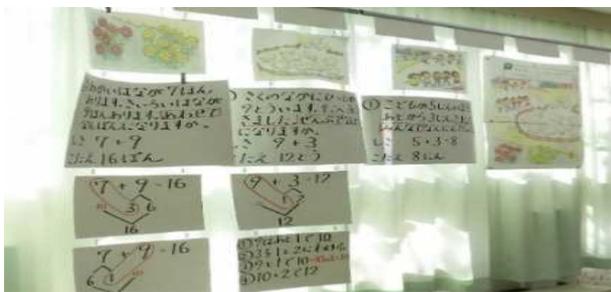
### 学習内容の振り返りができる掲示物

単元をとおして活用する既習事項を、授業中に児童が確認できるように掲示した。



量感を養うための実寸大の1 m²の正方形を示すとともに、下辺に1 cmごとの目盛りを記し、単位換算の学習にも活用した。

### 前時までの学習と比較して課題を焦点化



前時までの問題と解決方法を掲示し、本時との違いを確認できるようにするとともに、本時の学習課題の焦点化と解決の見通しをもたせたる場面での活用を図った。

単元の学習計画と学習した結果を掲示し、単元全体の見通しを意識できるようにした。



## 取組の成果

- 児童が既習の学習内容との比較から課題を考えるようになった。
- 導入や終末で、単元全体における本時の位置付けを確認することで、児童が次時の学習の見通しをもつことができた。
- 年間指導計画に基づいた掲示物の作成により、学級担任と連携した指導の充実が図られた。

## 取組のポイント

- 学習規律の定着に関する好事例の発見・発信
- 繰り返し確認することによる学習規律の定着

## 取組の概要

◆**みつける!** 推進教員が先生方の実践のよさを**発見**

### 【机上整理】

机上には、手前から「消しゴム・鉛筆・定規」の順に置き、鉛筆が転がらないように配慮



### 【立腰】

「おしりドン あしペタ せすじピン!」を合い言葉に授業の初めや途中で声掛け  
少しずつ自分でよい姿勢を保とうとする児童が増加



### 【音読指導】

教科書を両手で持って音読することで、手遊びがなくなり、姿勢が変容  
原則（教科書を持つ）と例外（置いて指でなぞる）を示し、児童の状況に応じて実践



## ◆ひろげる!

通信「STEP」で、学習規律の定着によって児童が変容した姿を**発信**



運動会が終わってから気温が低いまま推移していましたが、先週よりやっと暖かくなってきました。6月も終わりを迎えようとしています。第一 交・江別: 学校は3週目、上 1校は2週目を終えたところです。夏休み前は各校あと1週ずつ、まだまだ、先生方の日常の授業の中で、素晴らしい実践を紹介していければ—と思います。

**低学年の様子**

1・2年生でも「わきた」くん  
「わ」-わかってること「き」-きいていること「た」-単位  
文章題を指導する際、2年生の各クラスでは、上記の言葉に類する言葉で子どもたちに指導をしていました。「わかっていことは目で読むよ」「聞いていることは一本

## ◆たしかめる!

チェック期間を設け、学習規律の定着状況を児童と先生方で**確認**

学習規律の着実な定着（ステップアップ）による授業改善の推進

## 取組の成果

- 学習規律に係る実践を紹介したことで、他の学級に好事例が広がった。
- チェック期間を設けて振り返ることで、学習規律を意識する児童が増えた。
- 推進教員が、各学級の学習規律の定着状況を児童の変容した姿で捉え、紹介することで、教員が学習規律の意義や重要性について理解を深めることができた。



## 取組のポイント

- ノート指導について共通理解を図り、学校全体の取組を推進
- ノートの規格をそろえ、板書とノートを一体化

## 取組の概要

### 授業改善に結び付く基本的なノート指導(算数科)

- ・ 1時間の授業で見開き2ページの分量が目安
- ・ **問題**を書き写す  
(書き始めをそろえ、学習に向かうよう支援)
- ・ **学習課題**は児童の言葉を引き出して全員でつくる
- ・ **自分の考え**に加え、**友達の考え**も随時書くことを習慣化
- ・ 学習課題と**学習のまとめ**を正対させて書く

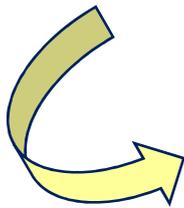


1ます  
あける

1きょう  
あける

### 板書とノートの一体化

- ・ ノートの規格をそろえる。
- ・ **児童と同じノートを使って**板書計画を立てる。
- ・ 行やマスを意識させるために、**実物投影機や教具等**を活用する。



## 取組の成果

- 板書とノートの一体化が意識され、1単位時間の授業改善につながった。
- 児童が、ノートに速く書くことができるようになった。
- 推進チーム内で各学校のノート指導の現状や効果的な指導などを交流し、共通理解を図った取組を進めた。

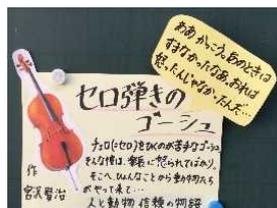
## 取組のポイント

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の共有
- 「言語活動の充実」に向けた校内研修の実施

## 取組の概要

### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の共有

「言語活動例」や「板書」、「子どものノート」等の好事例の写真を、全教職員が共有できるよう学年、教科ごとに整理



### 「言語活動の充実」に向けた校内研修の実施



実践資料を活用した単元全体や一単位時間で展開される「言語活動」の在り方に関するミニ研修の実施

教務部、研修部と連携し、各学校の課題に応じたテーマを設定

若手教員の学級で示範授業を行い、日常授業の改善や学級経営の在り方等について話し合う場を設定

「言語活動の充実」の具体を示す示範授業及びメンター形式による授業後のミーティングの実施



## 取組の成果

- 授業改善の方向性を共有することにより、各教科の指導事項や身に付かせたい力を踏まえた言語活動が位置付けられた。
- 「対話する必然性のある課題の設定」「文字言語での学習内容の振り返り」など、本時の「課題」「まとめ」の質的な改善が図られた。
- メンター形式による研修は、若手教員のニーズに応じて内容を工夫することにより、日常の授業改善に直結する取組となった。

## 取組のポイント

- ICTの活用による、教員による指示・説明時間の短縮
- 授業のねらいと手立ての明確化
- 話し合い、終末（振り返りとまとめ）の時間の十分な確保

## 取組の概要



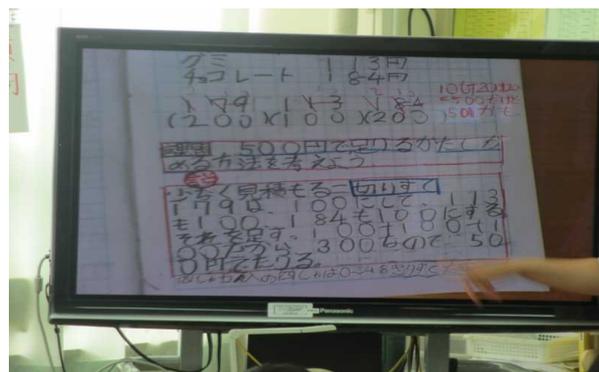
### ICT活用による時間短縮

素材集（推進教員作成のパワーポイント資料）を活用した教員による説明、実物投影機による学習課題、写真や図等の提示により、視覚的理解を促し、説明等に掛かる時間の短縮に努める。



### 1 単位時間の見通しの共有

単元を見通し、授業で身に付けさせたい力とその授業で中心となる学習活動を明らかにするとともに、学習過程を明示することで児童に1 単位時間の取組の見通しをもたせる。



### 個人思考・集団解決の時間確保

ICTの効果的な活用により生まれた時間を、話し合いや振り返りの時間に活用し、個人思考や集団解決に十分な時間を確保することで、学習内容の確実な定着を図る。

## 取組の成果

- 授業改善のための手段として、より効果的なICTの活用方法について追究していくことができた。
- 単元を見通した1 単位時間におけるねらいと学習課題の整合性を吟味することができた。
- 単元の特質や児童の実態に応じて、個人思考、集団解決に要する時間を検討することができた。

## 取組のポイント

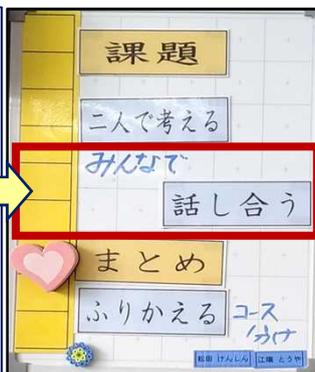
- 「授業スケール」による45分の授業の流れの視覚化
- 終末における「振り返り」の充実に向けた工夫
- 単元全体を見通した1単位時間の目標の明確化

## 取組の概要

### 「授業スケール」の活用

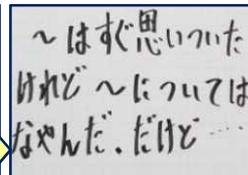
- ①授業開始前：ホワイトボード（以下ボード）に主な学習過程を貼る。
- ②授業始め：ボードを使い、児童に45分の授業の流れを簡単に説明する。
- ③授業中：ボードを黒板など児童からよく見える所に提示し、マグネット等を活用して児童と共に進捗状況を確認する。

左のマスは1マス5分を表している。  
 本事例では、「二人で考える」学習の後、「みんなで話し合う」に少し時間をかけるといことを、「間隔を空けること」で視覚的に示している。



単元の前半では、「振り返り」の方法や視点を示すなどの工夫を行うことにより、1単位時間の終末における「振り返り」の充実を図る。

単元の導入等において、支援の必要な児童に「振り返り」の型を示す。



「授業スケール」を効果的に活用するとともに、児童が単元全体の学習を見通し、主体的に学習できるよう、「単元指導計画表」を作成し、配付する。  
 単元全体を見通した上で、1単位時間のゴール（目標）を明確にすることにより、目標の達成に向けて、どのような「課題」を設定し、どのような「まとめ」や「振り返り」を行わせるのか等、1単位時間の授業を計画的に構築する。

三次			二次					一次	次	
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	時	
◆読み取ったことを基にして、物語の続きを考えたこと、まとめたことを話したりする。			◆場面の移り変わりに注意しながら、登場人物（ゆうたとかずき）の性格や気持ちの変化、ゆうたが一人で「ひみつきち」に行った理由などについて、叙述を基に想像して読んだり、最後の場面を読み、全文の中から自分の気に入った言葉を抜き出したりする。					◆全文を読み、単元の終末で、物語の続きを考えたこと、まとめたことを話したりすることについて見直しをもつ。	内容	目標…登場人物の様子を思い浮かべて読み、物語の感想、考えをまとめることができる。
									△○○	

## 取組の成果

- 学習過程（「課題」「まとめ」「振り返り」）の定着が図られた。
- 単元全体を見通した指導への教員の意識が向上した。
- 道徳科等、他教科等においても「授業スケール」を日常的に活用するようになった。

## 取組のポイント

- 児童に必要感のある課題の提示
- 推進教員と授業者の効果的・効率的な振り返りの工夫

## 取組の概要

### 児童に必要感のある課題の提示

#### 【示範授業による共通理解】

年度当初に推進教員による示範授業を行い、児童に必要感をもたせる課題提示のポイントについて共通理解を図った。



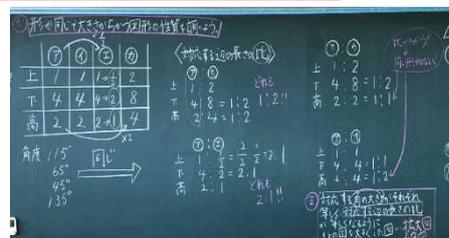
#### 【チーム通信における好事例の発信】

実践内容についての共通理解を図ることができるよう、チーム通信において好事例を紹介し、課題提示や板書の工夫改善等のポイントについて周知した。

### 推進教員と授業者の効果的・効率的な振り返りの工夫

#### 【日常の授業における課題提示の徹底】

板書計画を用いた打合せを行う中で、課題の確認を行い、全ての学級において課題を提示するようにした。



#### 【授業後における授業者との振り返り】

授業後、空き時間等で板書の写真などをもとに授業者と簡単な振り返りを行い、課題提示のポイントやタイミングについて共通理解を深めた。

## 取組の成果

- 授業の導入における必要感のある課題提示の理解が進み、本時の目標を明確にした上で授業実践を推進することができた。
- 課題提示により、児童が授業で「何を学ぶのか」を見通して、学習する姿が見られた。
- 板書の好事例から、教職員の構造的な板書に係る意識が高まった結果、授業改善が進むとともに、児童のノートも構造的な内容に変容した。

## 取組のポイント

- 児童の学習意欲を喚起する学習課題の設定について共通理解を図るよう校内研修を実施
- 学級担任が学習課題の設定の仕方についてイメージをもてるよう推進教員が作成した指導計画による授業を実践

## 取組の概要

### 共通理解を図る校内研修

推進教員が既習事項を踏まえて課題を焦点化する授業を公開した。その後、教員に対し、既習事項（掲示物）・実物・ICTを活用した課題提示の工夫や問題解決的な学習の重要性について研修を行った。

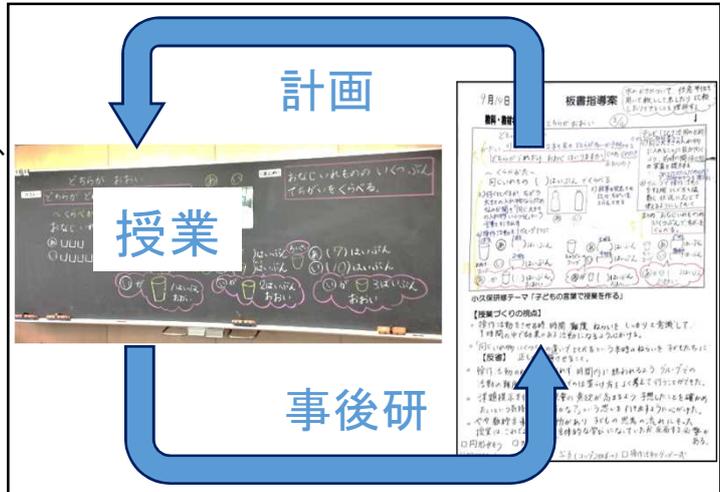
【授業場面を取り上げた研修の実施】



### 学級担任との協働による授業研究

推進教員が国語科の指導計画を作成し、その計画に沿って学級担任が授業を行うことにより、学習課題の設定の仕方について学級担任と共通理解を図った。また、授業後に推進教員と学級担任が学習課題の有効性や提示の工夫について協議を行い、次時の指導計画に生かした。

【授業づくりにおける検証改善サイクル】



## 取組の成果

- 各学級で課題提示を工夫した授業が実践されるようになった。
- 学習課題の設定の仕方について、校内研修を行ったことで、各学級担任が学習課題の設定の仕方にイメージをもてるようになった。
- 推進教員と学級担任が日常的に授業づくりについて協議し、授業改善を図ることができた。

## 取組のポイント

- 「チームTTメモ」を活用した授業改善への効果的な取組の推進
- 学習活動の充実に関わる内容を掲載した通信の発行

## 取組の概要

### 「チームTTメモ」を活用した授業改善への効果的な取組の推進

- ・授業前に、本時の課題やまとめ、授業改善のポイント等を記載したメモで授業の構想を交流し、改善点等を検討
- ・授業後に、児童の姿の変容等を記載したメモで授業改善の成果や課題等を具体的に交流

吉小のチームTTメモ	
9月13日(木) 3校時 2年 国語・算数 担任( )	
本時の「ココ見て！」& チームにお願い!	2学期前半の授業改善ポイント ※下のいずれかにチェックを-書- (1) 1単位時間の学習過程の改善 <input type="checkbox"/> 身につけさせるべき資質・能力を踏まえた「課題」と「まとめ」 <input type="checkbox"/> 知的な感動を引き出す「ゆきぶり発問」や「習熟・発展問題」 <input type="checkbox"/> 習熟の時間の確保 (2) 協同的な学習の改善 <input type="checkbox"/> ペア・グループ学習の方法 <input type="checkbox"/> 一斉学習における発問の取り上げ方と「まとめ」への導き方 (3) その他
本時の課題とまとめ	課題) 5のだんの九九をおぼえよう。 まとめ) 九九をおぼえたらもうんまいをこたえろりがはやくなる。 (Handwritten note: 1つ分が5のときは5のだんの九九をつかうとよい)
チームより	もうすでに5のだんの九九を覚えてしまっている子もいましたが、初めの子もいましたね。チェックカードをよく工夫していたので、みんな楽しんで練習していました。身につくまで根気強くいきましょう。 「しき5×3 答え15こ」よりも「しき5×3=15 答え15こ」の方がよいと思います。九九は五三15でひとまとまりなので、やはり15まで書かせましょう。

「課題とまとめが正対しているか」や「課題解決に向けた学習活動は適切か」などの視点で確認する。

【「チームTTメモ」の記載例】

### 学習活動の充実に関わる内容を掲載した通信の発行

- ・問題提示や課題設定、言語活動、まとめなどに関する優れた実践を紹介
- ・見方・考え方を働かせた学びや資質・能力の育成などについて情報提供
- ・発問や指示、話合いの方法など、具体的な指導方法を発信
- ・学習規律やノート指導、T・Tの活用など、学習活動を支える指導を共通理解

**国語科「課題を達成するための手立て」**

☆古丹別小学校1年生「だれがたべたのでしょうか」の実践から☆

担任の先生は、「『質問の文(問いの文)』と『答えの文』の構造を学ばせるために、『動物の本を使って』『質問→答え→説明』の構造で、友だちに問題を出す」という言語活動を取り入れました。

「だれがたべたのでしょうか?」  
 (質問)

「アガサザルはです。」  
 (回答)

問題づくりで壁になったのは、参考している動物の本からの抜き出しでした。本の文章が1年生にとっては長く、どの部分を「説明」として、抜き出せばよいか難しかったようです。  
 その様子を見取り、行乃先生は個別支援をすることで、問題づくりを促すことができました!

「だれがたべたのでしょうか?」  
 (質問)

「はです。」  
 (回答)

☆古丹別小学校3年生「わすれられないおくりもの」の実践から☆

担任の先生は、「なぜ『わすれられないおくりもの』になるのか」を解決するために、『〜あげる』『〜てくれる』『〜てもらう』のかに注目させました。

「わすれられないおくりもの」

「きつねが、あなぐまに教えてもらった」「ちえやくふうをのこしてくれた」などの文章表記に注目させることで、子どもたちが解決に向かいやすくなっていました。具体的な手立てが、子どもたちを解決に向かわせました。

「なぜ『わすれられないおくりもの』になるのかをわすれられないおくりもの」

校内全体で共通理解を図るため、児童が深い学びを実現するための効果的な手立て等について、具体的に紹介する。

【チームTT通信「PolePole」】

## 取組の成果

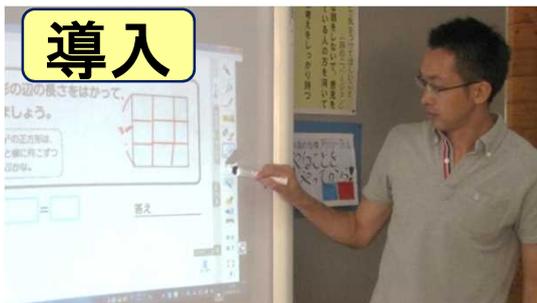
- 授業前後の打合せの内容が焦点化され、質の向上と時間短縮が図られた。
- 互いの実践が共有され、学校全体で授業改善を進める意識が高まった。
- 管理職と協力し、学校全体の授業改善の推進状況や教職員一人一人の特性を把握したことにより、教職員のニーズに合った情報を提供することができた。

## 取組のポイント

- まとめや振り返りの時間の確保に向けた、学習過程に応じたICTの活用
- 意図（指示、説明等）を明確にしたICTの活用

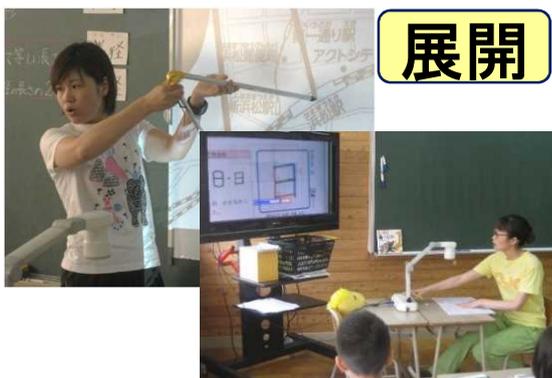
## 取組の概要

### 導入



本時の問題場面を絵や図を用いて具体的に提示することにより、学習内容への児童の興味や関心が高まるとともに、問題把握の時間が短縮される。

### 展開



コンパス等の学習用具の使用や漢字の書き順等の学習の時に、教師が、「やってみせながら」指示をすることで、ポイントを押さえた説明が可能になるとともに、説明時間が短縮される。

### 展開



円を既習の別の図形に変形するようなイメージしにくい説明の場合、デジタル教科書の動画機能等を用いることにより、分かりやすくなるとともに、説明時間が短縮される。

## 振り返りの時間の確保

## 取組の成果

- ICTを学習過程に即して活用することにより、効率的に授業を展開でき、振り返りの時間を確保することができた。
- 意図を明確にしたICTの活用は、教員の指導力の向上につながった。
- ICTの効果的な活用方法を共有するために、推進チーム通信による実践紹介を積極的に行った。

## 取組のポイント

- 実物投影機やタブレット型端末配置等の教育環境の整備
- 効果的なICT活用に係る研修による授業改善の推進

## 取組の概要



## 取組の成果

- 実物投影機やタブレット型端末の画面を無線で投影できる装置等の教育環境を整備し、ICT活用に係るミニ研修を重ねたことにより、ICTを効果的に活用した授業改善が進んだ。
- 推進教員が、効果的なICT活用の事例を紹介したり、T・Tの際にICTを取り入れた指導を行ったりしたことにより、ICTに対する苦手意識をもっていた教員も積極的に活用するようになった。

## 取組のポイント

- 学習内容に応じた学習形態の工夫
- 個に応じた指導の充実を図るティーム・ティーチングの実施
- 推進チーム通信を活用した情報の共有

## 取組の概要

- 校内研修等を通じて、学習内容や学習場面に応じた、一斉学習、小集団学習、個別学習等の設定について共通理解を図る。
- 学級担任との事前・事後の打合せのもと、授業の目的に沿った学習形態による効果的なT・T指導を行う。



- 児童一人一人に学習内容が確実に定着するようT1、T2を入れ替え、つまづきが予想される児童への個別指導を学級担任ができるようにするなど個に応じた指導の充実を図る。
- 授業後にミーティングを行い、授業改善の視点を明らかにする。

- 情報共有シートに示された月ごとの学校の重点課題への取組について、具体的な手立てを示すとともに、通信等を通して共通理解を図る。また、教職員個々の課題に応じた取組事項を明確にする。

## 取組の成果

- 学習形態の工夫によるスムーズな授業展開と児童の学習内容の深い理解につなげることができた。
- ティーム・ティーチングの役割の明確化により、個に応じた指導の充実が図られた。
- 教員間の情報交流の充実と手立ての更なる具体化が図られた。

## 取組のポイント

- 身に付けさせたい力を明確にした指導計画の設定
- 叙述を基に思考を深めさせるための言語活動の工夫
- 子どもから多様な考えを引き出すための発問の工夫

## 取組の概要

第4学年国語「ごんぎつね」（14時間扱い）の実践例より

### 改善前

**人物像にせまる発問**（3／14）

「ごんは、どんなぎつねでしょうか」

**気持ちを想像させる発問**（9／14）

「ごんは、どんな気持ちだったのでしょうか」

### 《改善内容》

- ①身に付けさせたい力を「登場人物の人物像や気持ちの変化を、叙述を基に想像して読む力」と設定
- ②叙述の中でも、本時では行動に着目させながら読ませるよう改善
- ③登場人物の行動から気持ちを想像する発問づくりの工夫

### 改善後

**人物像にせまる発問**（3／14）

「ごんは、どうしていたずらばかりしていたのでしょうか」

**気持ちを想像させる発問**（9／14）

「ごんは、どうして中へ入ったのでしょうか」



## 取組の成果

- 児童の思考を深めるための発問を工夫することで、児童から多様な意見が出されるようになった。
- 身に付けさせたい力を明確にした授業づくりを意識できるようになった。
- 事後の打合せの場面で、学級担任から発問に関する話題が出されるようになった。

## 取組のポイント

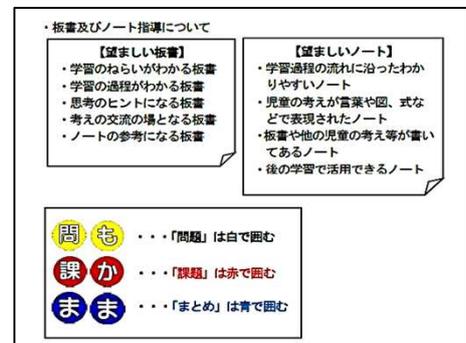
- 板書構成案を活用した板書及びノート指導についての提案
- 推進教員がT1の役割を担い、授業展開のモデルを提示

## 取組の概要

### 板書構成案を活用した板書及びノート指導についての提案

〔共通理解を図るための取組〕

- 推進チームの活動計画に板書及びノート指導の観点を設定
- 年間を通じた取組となるよう学校運営計画に掲載
- 児童が自らノートに学習内容を整理できるよう、「問題」「課題」「まとめ」を構造的に位置付けた板書構成案を作成
- 板書構成案をもとに授業の打合せを実施〔板書構成等の工夫〕
- 児童の考えを学級全体で交流することができるよう、板書に児童の考えを記録するためのスペースを設定
- 児童が、自分の立場を明確にして交流することができるよう、ネームプレートを活用



【板書及びノート指導の観点】

### T1としての授業改善推進教員による授業展開の例示

- 「問題」「課題」「まとめ」は黒板の左側、児童の考えは右側を使用
- 学習の流れを可視化し、児童のノート指導に活用できる板書構成を例示
- 見通し、振り返りの活動を充実させるため、板書に記した既習事項を参考に課題解決の見通しをもたせたり、板書内容を基に学習したことを振り返らせたりする活動を重点化



## 取組の成果

- 板書構成案をもとに打合せをすることで、学級担任との打合せが効率的になった。
- 板書の例示により、授業改善の視点として児童の個人思考を価値付けたり、全体交流で深めたりする場を設けることについて共通理解が図られた。

## 取組のポイント

- 学習過程や児童の思考の流れが分かる板書の徹底
- 授業改善に向けた共通理解を図るための打合せや「推進チーム通信」の発行

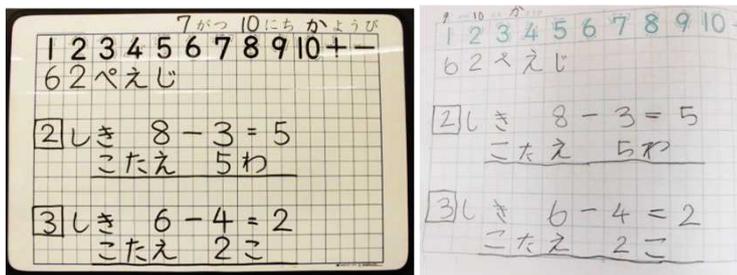
## 取組の概要

### 学習過程や児童の思考の流れが分かる板書の徹底



【構造的な板書を位置付けた授業の実施】

- 「学習課題」と「まとめ」を板書に示すことを徹底
- 児童の考え等を活用した構造的な板書の工夫
- 推進教員（T2）が板書を担当し、初任段階教員に対して基本的な指導技術等を指導



【ノート指導と直結した板書の徹底】

- 児童のノート指導に生かすマス目入りホワイトボードの活用

### 板書等の基本技術や好事例の共有



- 推進教員と校長、教務主任等が1週間の授業を振り返る場を設定
- 課題を踏まえた「推進チーム通信」を発行し、授業改善に係る基本的な指導技術等の共通理解

## 取組の成果

- 構造的な板書を徹底するとともに、ノート指導と直結した板書を行うことで、学習過程が明確になり、授業改善につながった。
- 定期的に、各学校と推進チームが取組を確認したり、「推進チーム通信」を発行したりすることにより、共通理解を図った取組が継続的に進められるようになった。

## 取組のポイント

- 分かったことと理由をあわせて書かせる場面の設定
- 全体交流後に自分の考えを見直し、修正する場面の設定
- 書き出しの言葉を提示して考えを書かせる場面の設定

## 取組の概要

### 全体交流後の書かせる場面

優れた表現に着目して、物語の魅力伝え合おう

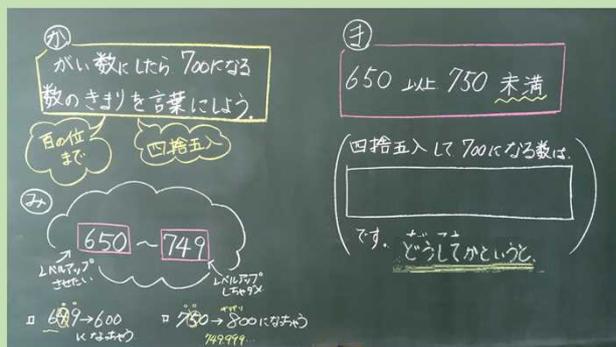
課題	魅力カードを作るために、情景描写に注目して読み、大造じいさんの心情を想像しよう。
個人思考	心情が想像できる情景描写を選び、心情を想像する。
全体交流	同じ情景描写を選んだ児童同士で、想像した心情を交流する。
再考	交流したことをもとに、自分の考えを再度考え、加除修正する。
まとめ	情景描写に着目すると、心情をより深く理解することができる。



- 終末の書く活動において、児童が集めた情報を活用し、考えを一層深めることができるよう、全体交流後に自分の考えを修正する場面を設定する。

### まとめの段階での書かせる場面

概数（四捨五入して700になる数の範囲を考える学習）



- 学習内容の定着へつなげることができるよう、本時のまとめとその理由をあわせて書かせる場面を設定する。
- 見通しをもった書く活動になるよう、書き出しの言葉を提示して考えを書かせる場面を設定する。

## 取組の成果

- 全体交流後に書く場面を位置付けたことで、児童の書く力が向上した。
- 書き出しを指示したことで、児童が見通しをもって書くことができた。
- 学校全体で書く活動を学習過程に位置付けたことで、共通理解の下、継続した取組を推進することができた。

# 授業終末

# 調べたことや考えたことを書かせる指導

## 取組のポイント

- 単元の「学習計画」の児童との共有と、振り返る場の設定
- 本時のねらい（ゴール）と学習の見通しの明確化
- 学んだことや自己評価を「学びの様子」として記述する取組の実施

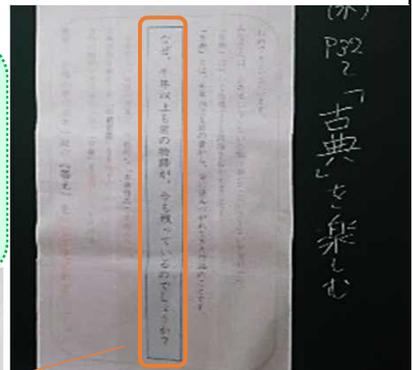
## 取組の概要

### 学習計画の共有

第5学年国語「日本の文化を考えよう」の単元で、「なぜ古典や伝統文化が今も残っているのか」という単元の課題を踏まえた話合いが進められるよう、学習計画を示すとともに、毎時間の個々の学びを記述した。

昔から読みつがれている物語を読み、感想を書くこと。～古典作品の内容を知り、音読すること。昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

時	学習内容	振り返りシート
一	① 古典とは ② 竹取物語	竹取物語のつづきが知れてよかったです。 古典を讀んでみようと改めて思いました。
二	① 平家物語 ② 物語の意味 ③ 暗唱	竹取物語より新しいかんじがする。 いばてらそうにしていても、 思ってたより読めた。でも、難かしい。
三	① 伊勢物語 ② 歴史 ③ 茶はの目も	教科書のような教えが多い。 人の思をうけたら、返を返すにぞ持 つことがわかった。 歴史を知っていると楽しい。 長さきこボルトがルの女流は、 かた。
四	① 伝説英雄とは ② クイテ ③ 古典を学んだ 感想	昔から受け継がれている誇り、 力を知れた。 能は、ミラジカ、狂は、コトのよつに、 わからなかつた。ここが、 今は、ふつうにある話でも、 伝え方がたくさんあった。



単元全体の課題を提示  
(第1時の板書)

毎時間の学習内容を「振り返りシート」に明記

「学びの様子」を振り返り  
タイムで記述

### 継続的な自己評価の実施

1単位時間の目標を踏まえて「何ができるようになる」といことを教員が示し、児童自身が授業の導入で自己目標を決定する。終末では自己評価して次時への意欲につなげる。

## 取組の成果

- 単元のゴールを児童に意識させることができた。
- 児童の「学びの様子」を踏まえ、次時の授業づくりに生かすことができた。
- 「振り返り」を校内研修の重点とし、全校で日常的に取り組むことができるようにした。

### 取組のポイント

- 「振り返る」学習活動の工夫
- 全校で学習課題と正対したまとめを授業に位置付ける工夫
- 児童が学習内容を活用して振り返ることができるまとめの工夫

### 取組の概要

「振り返る」学習活動の工夫

#### 全校で学習課題と正対したまとめを位置付ける工夫



- 全ての学級・全ての教科等で学習課題と正対したまとめを行うことができるよう、板書例を可視化し、共通理解を図る。

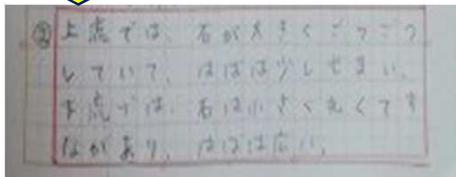
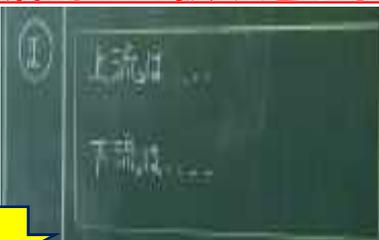


- 継続的な取組になるよう「学習課題と正対したまとめ」の取組事例を校内に掲示し、教職員の意識化につなげる。

#### 児童が学習内容を活用して振り返るまとめの工夫

【まとめ】

「学習したことを振り返って、上流と下流の特徴をノートにまとめましょう。」



- 終末に、本時で学習した内容について児童がまとめを行う学習活動を取り入れるなど、「振り返る」学習活動の充実を図る。

### 取組の成果

- 「振り返る」学習活動を研究内容に位置付け、全教職員で協議するなど、組織的な研修を行ったことにより、教員の意識の向上が図られた。
- 「課題と正対したまとめ」の取組が分かる板書の写真を掲示するなど、可視化することで共通理解の徹底を図った。
- 「振り返る」学習活動の工夫が継続的な取組となるよう、学校で共通して取り組む事項として位置付けた。

## 取組のポイント

- 自己評価を活用した習熟度別少人数指導の実施
- ICTを活用したまとめや振り返りの工夫

## 取組の概要

### 自己評価を活用した習熟度別少人数指導の実施

#### ○本時の振り返りで自己評価を実施

終末の段階で、児童が自己の学びを客観的に捉えられるよう、全体で本時の学習を振り返った後、学習内容の定着に関する自己評価を実施。

#### ○自己評価に応じた習熟度別少人数指導

児童が各自のペースで学習を進められるよう、「よく分かった」と自己評価したグループは、発展的な内容のプリントを、「もう少し」と自己評価したグループは、基本的な問題を多く取り入れたプリントを実施。



### ICTを活用したまとめや振り返りの工夫

#### ○実物投影機で実物を提示

ノート指導と関連付けられるよう、教師がまとめを記載したノートを実物投影機で投影。

#### ○プレゼンテーションソフトの活用

児童の思考に沿った効果的なまとめになるよう、プレゼンテーションソフトを活用した振り返りを実施。

#### ○タブレット端末でフラッシュ問題を提示

短時間で有効な振り返りができるよう、四則計算などのフラッシュ問題をモニターで提示。



## 取組の成果

- 学級担任だけでなく児童も学びの状況を客観的に把握することができた。
- ICTを活用し、学習した内容を可視化することにより、短い時間で効率的・効果的に振り返りを行うことができるようになり、児童が何を学んだかを実感する時間を確保することができた。